

発行所
白石市役所
企画審議室
白石市桜小路35
TEL(代)2111
発行定日 毎月15日
(売価 1部2円)



選挙
特集号

明るい選挙で 住みよい郷土

明るく投票しましょう

正しい政治は

理想選挙から

市選挙管理委員会
委員長 青木 八重治

清く、明るく、正しい選挙は、だれもが望むところであり、民主政治地方自治につながる大切なことで選挙は常に公明にして適正に行なわれなければなりません。

何時の選挙も理想的に行われていたでしょうか。残念ながら我国の選挙においては理想にはまだ遠く選挙のたびに違反が断えないようです。

選挙には、買収、供応、義理人情、戸別訪問等は禁物で絶対に追放しなければならぬと思えます。これを知りつゝ平気で買収し供応もする、このように「わかっているでもやめられない者」が自覚し、自重しないかぎりいくら公明選挙を唱えても無理であると思えます。

理想選挙などということ「高嶺の花」的存在であるように思われましようがこのまゝにしておいてよいのだろうか。

表として選り最も適当であるか、ということをよく考へ、他人の指図、或いは義理人情によつて自分の意志を変えたりしないで自分の判断に従つて投票し、真にその名にふさわしい住民の代表を選ぶような選挙を実現することにあります。

市においても公明選挙推進協議会が中心となり、政治、選挙の常識、道義を身につけるため、活動を積極的に実施し、その成果をあげておりますが、今回の地方選挙には、この運動を大いに活用し、理想選挙実現に一層の努力を傾注することにいたしたいと思います。

どうか、有権者の皆さん地方選挙は直接私たちの台所につながる大事な選挙でありますから、公明な自分の意志によつて代表者を選び明るい郷土、住みよい家庭を礎くために公明選挙運動に進んでご協力ください。



三悪を土俵の外へ
穴戸 左行

公明選挙運動

白石市公民館長 菅野新一

このたび地方選挙が行われるが、選挙が来るたびに不意に思いつくことなにかある。

元来、規則とか法律などは守ることが当然であるのに、全然といってよいくらい守られていないと誰しも認めている規則、法律もいくつかある。

その内でも代表的なものに「公職選挙法」がある。違反する側も案外平気でいれ、これを眺める国民も余り気にしてはいない。

候補者は当選するために違反するの仕方がないと考え、選挙民も違反した候補者を堂々(?)当選させてしまおう。そこに強い罪悪感を持たない。本当に不思議なことである。

禁煙の集會場であらうとタバコを喫う人もいれば、歩戸外に出れば車は猛スピードで疾走する。スピード違反はもう常識になつていゝ。米の配給制度にいた

ことである。

法秩序を守らないということは罪悪であるという考えを国民一人一人心にしっかりと再銘記すべき時ではないだろうか。民主政治を守るためには、住みよい社会を作るためにも、この事は最も大切なこと、思う。

公明選挙運動も戦後十数年間展開されて来たが、当初に比較してどの程度公明化されたかを振り返つて見ると、気持は暗くなるばかりである。いつになつたら公明選挙が完全に実施される日が来るのだろうか。我々国民はもつと政治についての勉強が足りないのではないだろうか。我々国民が政治に参画するのは、選挙を通じてのみ可能であるので、この権利をむざむざ捨てたり、金で売つたり、義理や他人の意見で差右されるようなことは断じてあつてはならないのである。

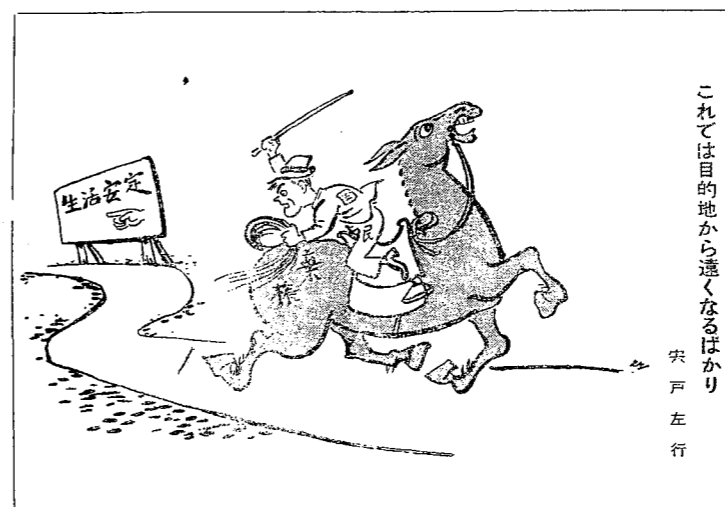
要するに国民一人一人がもつと「自覚し、公明な選挙を行い、汚職や暴力などにつながらない」という強い心構えを持つことが必要である。そうすれば公明選挙運動もよい成果を結ぶのではないだろうか。

公明選挙に宿る

良い政治

選挙法守らぬ

候補はボイコット



地方選挙に望む

白石市婦人団体連合会 会長 太幸ふみ

私たち婦人が参政権をえてより17年、その間10数回の公民権を公使しております。

婦人団体としても折にふれ機にのぞんでは公明選挙推進のため勉強と啓蒙をおこなつてきました。が、まことに「言うは易く行は難し」とはこのことであり、これはひとり婦人だけの問題でなく一般社会の問題でもあります。

青年婦人がまことに純真な気持ちで対処しようとしても、選挙の度にその過大な費用の消耗と、票あつめに大わらわの運動員の様子を見るとき公明選挙の前途遠しの感を深くするもので

ふりむく選挙のときの

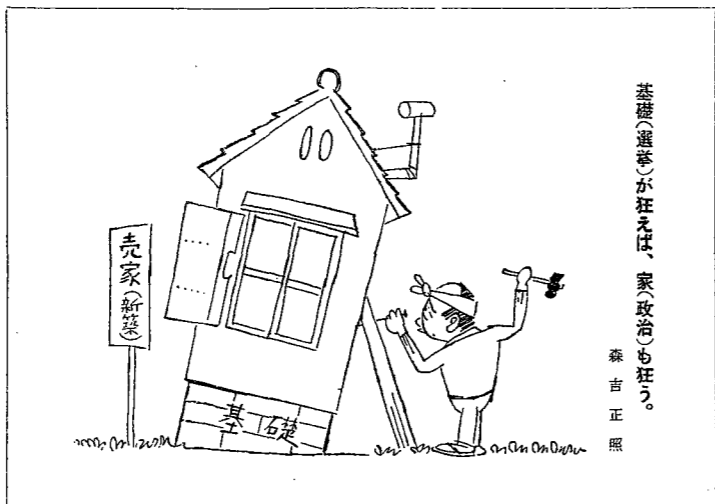
義理と金

投票はきれいな心と

ふたりづれ

地方選挙に望む

白石刈田婦連会長 小関秀子



地方選挙を控えて、私達選挙民は過去の選挙を振り返つてみてよいためにはないか。

常に公明選挙をお互に口にし、明るい政治は公明選挙からと認識しながら、い

つ例に酒が揚げられよう酒の嫌いな婦人は自己の利益に結びつかない事と、政治意識の低調から選挙には割合に無関心。投票所入場券を配ばられ、棄権防止をマスコミや、会合等で聞かされるので、近年は一応棄権率は下廻つたとは言ふもの、その内容を考えて見る時、必ずしも自覚した票なのか疑つてみたくなる。一票一票が自覚された票でなければ返つて政治の危険を招く事にもなるうではないか。

今から十二年前、此の地方一体刈田郡の時代。郡公明選挙協議会の名で、参議院選挙が挙行されるにあたり公明選挙と棄権防止の運動に各村々を廻つた時のことを。街頭での呼びかけに聞いて下さつた人々に一寸声をかけてみた。「もう明後日の選挙の候補者は心に定つていらつしやいますか?」「未だ誰れとも定めてない。全国区等誰れがどんな人物だか解らない。候補者名簿もあまり沢山書いてあるので終りまで読んでいられないから始めの方の書き安いの名を書いて投票する」と言ふ。一寸落語にでも出て来るような話を忘れる事が出来ない。

勿論昭和廿二年に始めて選挙権が与えられ、僅かに二、三回の選挙の経験しかもたない、当時の婦人の選挙意識の低さは仕方がなかつたとしても、こうした無自覚な票の棄権を防止する事が政治を明るくする途であるかどうか考えさせられた。

来るべき今春の選挙こそは私達婦人にとつても本當に身近な選挙であり候補者の人柄も充分知る事が出来る正しい選挙の出来る時。しかし身近だけに義理人情のからまりも又深い。男の方々もよもや一杯の酒や目前の利害に迷ふことはないように期待する。

一面、私達婦人も、正しい政治意識に立ち、正しい人こそといふ人に誰れにも左右される事なく投票したいものだ。

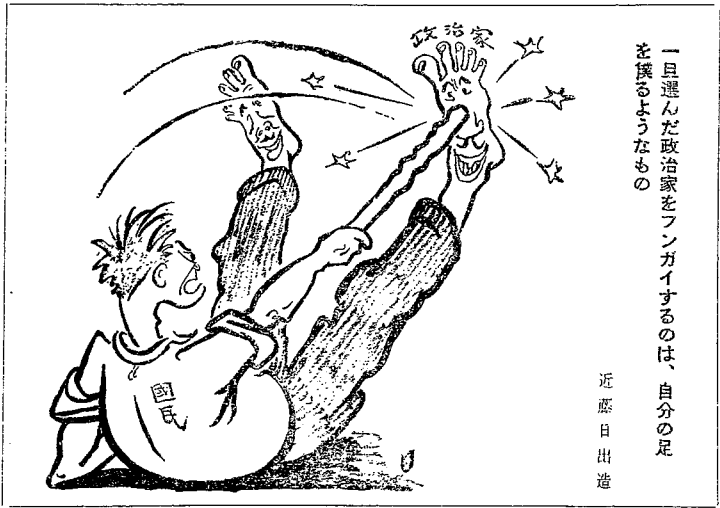
しかしいろいろな啓蒙やお互の勉強で婦人への政治への関心は年々高まつている事であり、今後の選挙こそは必ずや明るい政治につながる、正しい選挙の行はれる事を信じ、且つ期待しやみません。

4月30日 市議会議員投票日

投票第一 棄権は危険

XXXXXXXXXX

一旦選んだ政治家をフンガイするのは、自分の足を撲るようなもの



近藤日出造

新しい選挙権を得て

八島徳子

投票用紙に候補者の中から選んだ人の名を書き投票箱の前に立つた時ちよつとどきどきした。自分がこの一票を投ずることによつてこの一票のために当選する人、この一票が足りないばかりに落選する人があるだろう。そのことは即ちこの一票がそのまづ明日からの自分達の生活に深い影響を持つて示すものと感じた。

私は自分の選挙入場券が届いた時、自分にも選挙権が出来たんだなと感じた、これで本当に大人の仲間入りをするんだと思つた。同時に社会の一員としての自分に責任を感じ、自分が心

れていなかったことを考え、これからはもつともつと広い目で社会を見つめ物事にあたつていこうということでした。これまで自分本位なものの考え方をし、そして政治的なことは難かしいという先入観から深く考えもせず、知ろうともしなかつた自分を反省しました。今春は選挙の多くある年

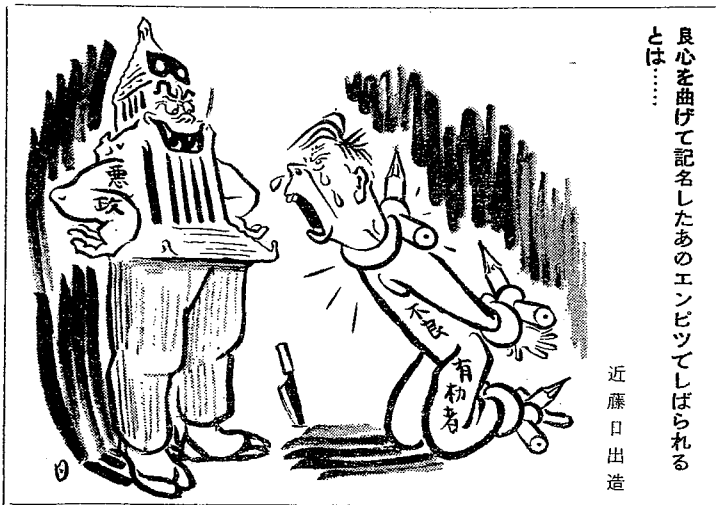
とは実は大変なことだと思つてしまつた。いくら多くの立候補者がいても、この人ならと思える人はなかなかない。或る点では納得出来ても他方ではどうしてもうなづけない。でもすべての点で自分の満足出来る人を選ぶといふのは困難なことだし、少しでも多くの点で同意出来る人を選べばそれでよいのだと思つた。

(二〇才・学生)

とは自分の権利を放棄することであり、ひいては民主政治、地方自治の健全な発展のために無責任なことといわねばならない。以上が選挙権を得て始めての選挙であつた、参議院選挙の時に思つた事柄です。今後、何回か行われるであろう選挙に、この大切な選挙権を大事に守つていこうと思つています。

良心を曲げて記名したあのエンピツでしぼられるとは……

近藤日出造



新しい選挙権を得て

片倉卓子

昨年の七月の参議院選挙が私にとつて選挙権を得てはじめての選挙でした。姉といつしよに公会堂に行きはじめたものめずらしきと感激の中で投票しました。はじめて選挙をするに当

つて思つたことは今後一人

にも狭い範囲にしか向けら

れたいと思つています。

(二十才・公社員)